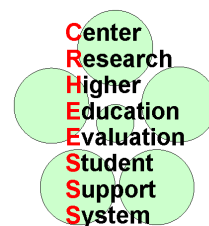


# 週刊センターニュース

No.328



第328号(2010年10月12日) 毎週月曜日発行  
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL：[http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## ○●○ 科学技術振興機構研究プロジェクト「自閉症に優しい社会:共生と治療の調和の模索」 第5回「自閉症にやさしい社会」研究会のご案内 ○●○

テーマ「自閉症に優しい大学①ー授業を変えるー」

日時：10月13日(水) 19時-21時

場所：金沢大学角間キャンパス中央図書館 2F AV 室

担当：青野 透(金沢大学大学教育開発・支援センター教授)

趣旨：発達障害かもしれない受講生がいることを前提に授業をする。大学の教員に、そのための授業設計、授業運営技術が求められる時代がやってこようとしている。大学入試センター試験でも、来年度から、医師の診断書などをもとに発達障害のある受験生に対して、試験時間の延長や別室での受験などの特例措置がとられることが決まった。大学教育は、この十年ほどの間に、聴覚障害学生に対してのノートテイクによる授業情報保障が当たり前になるという劇的な変化を見せた。それでは、発達障害の学生、例えば、アスペルガー障害の学生がおり支援を申し出ている場合に、教員はどう授業を変えていかねばならないのだろうか。また、変えようとしてもできないのならば、それを阻んでいるのは何だろうか。カリキュラムを含め、大学の教育システムそのものの見直し、さらには大学教育の意義についてのより深い考察を求める問いである。

まずは、山本佳子(いわき明星大学)・仁平義明(白鷗大学)「アスペルガー障害学生の学業支援ー教員・職員・相談担当者・学生間の支援許容度の違いー」『学生相談研究』31巻第1号(2010年7月)を手がかりに、発達障害学生のために授業を具体的にどのように変えるべきか、またその教室内の他の学生たちにどのような理解を求めるべきかについて、参加者と一緒に検討を試みたい。なお、全ての大学、短期大学等に法的に義務づけられた「授業内容・方法の改善のための組織的な研修・研究」(FD)の喫緊のテーマであり、教員の課題でもあるが、同時に、学生自身にとっても重要な事柄である。学生たちの参加を特に強く望みたい。

## ○●○ 平成22年度第2回カリキュラム研究会のご案内 ○●○

テーマ：共通教育特設プログラムにおける環境・ESD科目のパッケージ化について(第2回)

日時：10月21日(木) 16時30分~18時

場所：角間キャンパス総合教育1号館2階大会議室

担当：鈴木克徳(環境保全センター教授)、西山宣昭(大学教育開発・支援センター教授)

趣旨：第2期中期計画【3-1】および【4-3】の22年度計画に環境・ESDに関わる既存の共通教育科目群の体系化を図るとともに、新規科目の開発も行うことが掲げられている。これらの計画については、共通教育委員会下のWGおよびカリキュラム検討委員会でその実現に向けて作業が進

められている。この研究会では、第1回に続き、上記WGで検討中の環境・ESD科目のパッケージ化案について授業担当者を交えて議論する。今回は、まず、他大学の事例について鈴木克徳教授に紹介していただき、今後の継続的なパッケージおよび教育内容の改善の参考にするために情報を参加者間で共有する。さらに、パッケージ案の最終確認を行うとともに、パッケージ全体の教育目標について公開で議論したい。

## ○●○ EUAについて ○●○

今回は、この9月に研究調査で訪問した欧州大学協会(the European University Association, EUA, <http://www.eua.be/>) (以下EUAと略す) について紹介させていただく。EUAは、欧州域内46ヶ国の高等教育機関を代表する機関である。2001年に、旧欧州大学協会(the Association of European Universities)と欧州学長会議連盟(the Confederation of European Union Rectors' Conferences)が合体して出来た組織である。EUAは、個々の大学だけでなく、学長会議、認証評価機関などの高等教育関連機関、その他国際機関などをメンバーとしている。EUAは、欧州高等教育圏構築を目指すヨーロッパプロセス推進の有力機関でもあり、高等教育及び研究における最新情報を共有することにより、教育、研究等について幅広く議論する場ともなっている。

EUAの使命(Mission)は、高等教育及び研究の専門拠点として、以下の点において、大学等を支援することとされている。

- 今後、ますます知識社会の重要性が増していく欧州において、増大する期待に大学等高等教育機関が応えられるような政策を促進する
- 様々なレベルでの政策決定者に対して、上記政策を訴えかけ、大学の声を届ける
- 大学等関係者の発展に大きな影響のある政策論議についての情報提供
- 上記政策遂行を支持しつつ、個々の高等教育機関を巻き込み、その活動を支援するプロジェクトを通して、その知識を増やしと専門性を高める
- 様々な分野においてメンバー同士の相互学習、経験共有、成功事例の仕組みの移転を行うことにより当該機関の統治力、指導力、運営管理力を高める
- 世界における欧州の大学の地位強化を目指し、欧州とその他の地域間における高等教育と研究に関する連携を強化する

この使命に基づき、EUAでは、博士課程教育に特化した協議会として、EUA COUNCIL FOR DOCTORAL EDUCATION(EUA-CDE)や、機関別評価プログラムとしての Institutional Evaluation Programme (IEP)などをメンバーに対するサービスとして提供している。また、"Strong Universities for Europe"というプロジェクトも進めており、"EUA Work Programme 2010/2011"に 欧州高等教育圏(the European Higher Education Area, EHEA)、欧州研究圏(the European Research Area, ERA)、大学統治・大学自治・財政などの分野での活動が記されている。各活動の詳細については、今回、十分に説明しきれないが、現在採択されている科研(「専門分野別教育プログラム認定・評価導入への実証的研究」、基盤研究(C)、課題番号22530912)と関連づけながら、EUAについては、今後、更に調査を続けていきたいと考えている。

EUAの活動においては、上記ERAに代表されるように研究面がかなり重視されている。また、欧州では、高等教育機関がいわゆる教育省管轄ではなく、科学技術開発省が大学を管轄している場合(デンマークなど)がある。これらのことは、大学という組織に対する欧州の考え方を反映しているように思われた。

(文責 評価システム研究部門 堀井祐介)